

# おひさま保育園 自己評価表

2022年度

	今年度の活動	評価・反省 課題
施設管理	25年が経過し、施設の老朽化による改修工事が必要になってきている。今年度は「新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策事業補助金」を活用し、保護者駐輪場拡張工事や電気設備更新工事、プールシャワー増設工事など複数カ所の改修工事の実施、及び給食室のエアコンなどの大型備品を購入することができた。また、園車も買い替え、仕様の改善により用途の幅を広げることができた。	感染予防対策の充実はもちろんのこと、子どもたちや職員にとって、よりより環境を実現することができた。老朽化により床暖房の改修を順次行っている。1F保育室は終えたので、2F保育室の改修を単年度ごとの財政計画をもとに順次実施する。
人事管理	吹田市の岸部保育園民営化による職員配置に向け、法人内連携のもと、1名の職員を送り出した。衛生推進者（看護師）や子育て支援員（早朝パート）の配置に向け、対象者が研修を受講することができた。第三者評価受審に参加したことを踏まえ、おひさまこ保育園（小規模）との連携のあり方や管理運営について検討していく。	おひさまこ保育園との両園の関係において、組織をそれぞれ明確化し、独自性や特色を生かし、その上での連携を図れるようにする。主任複数体制に向けて、人材育成を行う。
保護者対応	第三者評価における保護者アンケートでは、返信率が93%を超え、園に対する関心の高さを評価の中からうかがうことができた。今年度、25周年を迎え、職員はもとより、保護者参画のもと記念誌づくりに取り組んだ。コロナ禍で見えにくくなっていた園行事について、その「意義」や「思い」をまとめ、共有する媒体として形に残すことができた。	保護者からの評価は、これまで積み重ねてきた保育の確信や励みになった。今後も保護者と共同の関係を構築し、これまでの歴史や保育を継承する取り組みを行う。その媒体として、記念誌も活用していく。
健康及び安全	バスの置き去り事故を受け、リスクマネジメント委員会を中心にして、「バス乗降時の安全マニュアル」を作成した。それを基に園外保育における人数確認を徹底し、危機管理の向上に努めた。また、2023年度から義務付けとなった「安全計画」の策定に着手し、保育場面での総合的な安全管理について視野を広げてきた。新型コロナ対策として、施設整備を行い、引き続き学習会を行った。	園外保育時は必ずマニュアルを活用し、確認の仕方について共有し、危機管理意識を高めてきた。「安全計画」の中身については、今後は職員で議論し、生きた計画になるように実践していく。新型コロナは5類の扱いを理解し、対応していく。
小学校・地域連携	おひさまこ保育園と連携しながら取り組んでいる、子どもの居場所づくり『おひさまの家』（地域貢献事業）では、放課後子どもクラブ後の生活支援の場として、地域の学童（主に卒園児）を毎日3～5名を受け入れ、在園児との交流を図った。3年ぶりに幼保こ小連絡会が開催され、小学校接続に向けた取り組みについて交流を図った。学校体験入学も実施することができ、就学前の子どもたちの期待や見通しにつながった。	『おひさまの家』は、利用者が生活力や主体性を育ていけるよう発展させていく。小学校接続に向けては、保育園の実態や大切にしていることを積極的に発信し、「接続」の中身を理解し合える関係を築いていく。
保育の質の向上	豊中地域・法人北支部での交換研修を行い、お互いに保育の質を高め合ってきた。北支部法人研修では、新たな試みとして中堅職員を対象にし、「長く働き続けられる職場であるために」というテーマで研修を行った。対象者を限定することで、より目的に即した研修ができ、責任者としての役割を自覚する機会になった。子どもの身体づくりに向けた体育指導の実地研修、自主研修を行い、指導力の向上に努めてきた。	職員のニーズや課題に応じた研修を実施しできるよう、対象者や運営方法を工夫する。コロナ禍における子どもたちの身体の育ちそびれについて検証し、系統的・継続的に働きかけることができるよう、研修や計画の立案を行っていく。
地域との関わり	地域の園庭開放『あそぼう会』は再開したものの、周知の仕方が弱かったのか、年間を通して参加者が0組だった。一方で、園の見学者は年々増加傾向にあるため、地域の方との関係を紡ぎながら地域活動を展開していく。コロナ禍の影響で、継続的に実施することが困難だった配食サービスを、ほぼ毎月実施することができ、双方にとっての喜びになった。	豊中市の広報やアプリを活用し、地域活動の周知の仕方を工夫する。また、スマイルサポーター（地域貢献支援員）の役割を明確にし、地域交流や子育て相談について企画や運営について主体となっていく。
その他	NASの導入、「うえぶさくら」の切り換えを行い、データセキュリティ環境とバックアップ機能を強化することができた。	今後は書類管理や個人情報管理の観点から、システム化できるような体制を構築し、業務の効率化・省力化をすすめていく。